

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人神原苑 小野田障害デイサービスセンター		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 5日		～ 令和 8年 1月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 13日		～ 令和 8年 1月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全職員の勤務年数が長く、利用者の特性や性格を理解し、支援出来る。	日頃経験出来ない地域の公共交通機関(電車)を利用し、昼食を購入する等の目的を持った体験型の活動を実施している。実施するにあたって事前に乗車する時刻等の準備、当日の流れを把握出来るよう利用者にはたらきかけている。	高校生は将来の就労を見据えて、実習内容を保護者及び本人から聞きとり、作業活動として取り入れた活動、小中学生は学校や保護者の要望に応じて集団活動の一環として取り組んでいる。
2	おやつ提供時、お菓子と飲み物は自己決定出来るようにしている。買い物学習を通して社会性を身に付けたり、自分で好きな物(お菓子や弁当)を選択して購入するだけでなく、家人からの日用品等頼まれた物品の購入(お使い)も実施している。	療育活動を通して季節の外出レク(花見、みかん狩り等)だけでなく、制作活動も活用しながら季節を味わえるよう取り組んでいる。また、自分たちで植えた野菜を収穫して手作り昼食会を実施し、食育や家事体験を学ぶ機会を設けている。	
3		地域資源を利用して、体育館利用の活動を年5回程度取り入れている。また、牛乳パックやペットボトルのリサイクル活動も取り入れている。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校ではタブレットを使用した学習を取り入れている。事業所ではタブレットの電子機器がなく、紙媒体等で療育活動を行っている為、療育課題に限度がある。	アンケート結果より、「いいえ」「わからない」の多い項目を減らす為の工夫が必要である。	非常災害時の訓練は毎年実施しているが回答結果から保護者に周知が不十分であるように考えられる。出来るだけ広報誌にて発信はしているが、空間上の問題で全てを掲載する事は難しい。その為SNSも活用しながら、少しでも多く知ってもらえるよう工夫が必要である。
2	保護者のメールアドレスの登録はしているが、あまり活用できておらず保護者の連絡手段は電話がメインとなっている。保護者と連絡が取りあえ、すぐ発信ややりとり出来るようなスマートフォンのアプリでの活用があれば良いと思う。	当事業所の契約利用者は高校生が半数以上であり、卒業後を見据えての新規利用者獲得が課題となっている。	年数を重ねる事で療育や集団活動で使用している物品の経年劣化が見られている。その為、職員で可能な限り修繕等は行いが、難しい範囲のものに関しては購入、業者に修繕の依頼する等の措置を取り、事業所内を綺麗に保ち利用者だけでなく全員が利用しやすい環境、整備が必要である。
3		契約利用者の現状として小学生低学年児から高校生と幅広い。また中間層が少なく、障がいの種類も様々である為、今後の集団での活動内容が課題である。	